

ホッケー競技における安全面の留意点

埼玉県高体連ホッケー専門部 皆野高校 藤井 靖士

0. ホッケーについて

試合時間は前、後半35分ずつで行われる。フィールドに立てるのはサッカーと同じ11人である。コートは縦100ヤード、横60ヤードでサッカーよりも少し狭い程度である。

ルール上の大きな特徴は、ホッケーでは、サークルと呼ばれるほぼ半円の中からシュートを打たないと、得点とみなされない。従って、サッカーのようなロングシュートはあり得ない。また、ホッケーでは、シュートの時を除いて、基本的にボールを上げてはいけないので、サッカーのように空中にセンターリングを上げることができない。

ホッケー競技は、硬質のボールをスティックで、双方が入り乱れた状態で操作し合うことで競技が展開するだけに、ルールにおいても、危険防止や安全確保は厳しく規定されているが、高度な判断力としてしっかりした基本的な技術が強く要求される。また、ホッケー競技は、小中学校でまったく経験しないで、高校で初めて経験する生徒が多く、入部する生徒数にも限界があるため、まだ技術が伴ってなくても公式戦に出場するケースもあり、災害発生の可能性も高いと思われる。

1. 埼玉県におけるホッケーの現状

- 団体について
 - ・飯能高校 ・飯能南高校 ・皆野高校 ・慶応義塾志木高校 ・聖望学園高校
- 大会について
 - ・4月：関東大会1次予選
 - ・5月：学総体兼関東大会2次予選
 - ・8月：国体関東ブロック予選
 - ・10月：新人戦 → 関東選抜 → 全国選抜

} 関東大会 → インターハイ

2. 練習、競技等で生じる事故について

- ・人工芝で行うため、手、肘、膝等に裂傷や擦過傷を負う危険性がある。
- ・スティックやボールが体にあたって、打撲や骨折などの危険性がある。
※ボールスピードが速いため、かまえていても避け切れない場合やミスする場合もある。
- ・運動量の多いスポーツであるため、熱中症や脱水症状が起こる場合がある。
- ・かがんで行うため、腰を痛めることがある。

等、とにかくケガの多いスポーツである。(別紙参照)

3. 安全対策について

- ・摩擦によるやけどを防止するために人工芝に水を撒いてから行う。
- ・スティックに破損がないか日頃から点検をする。(試合時には審判によるチェックがある)
- ・ボールにひび割れがないかチェックをする。(試合時には常に新しいボールを使用する)
- ・フィールドプレイヤーは「すねあて」や「グローブ」を着用しケガの防止に努める。
- ・近年では、「マウスガード」を着用することも求められている。ユース世代では義務付けも。
- ・接触プレーが非常に多いので、ディフェンスのあたり方等の基本技能以外についても指導しなければならない。
- ・アンパイアは、試合中けが人が出た場合、けがの症状を問わず試合をストップし、けがの状況を確認し、選手の交代が必要であれば、交代の時間を十分とるよう一層の徹底を図る。
- ・十分な休憩と水分補給を行う。夏場の試合ではハーフタイム以外に水分補給の時間がとられる。また競技特性としてエントリーされたメンバーであれば、自由に交代できることになり、疲労回復等のために出入りでき、脱水症状による事故防止に役だっている。



参考資料：学校事故事例（日本スポーツ振興センターより）

死亡障害種	被災学年	性別	競技種目	発生場所	発生状況
歯牙障害	2	男	ホッケー	運動場・校庭(園庭)	遠征での試合中にボールの取り合いになり、相手選手のスティックが前歯に当たり、上の歯が2本折れた。
歯牙障害	1	男	ホッケー	運動場・校庭(園庭)	ホッケー部の部活動中に、他の部員が素振りをしていたスティックが、口元に強く当たった。
歯牙障害	1	男	ホッケー	運動場・校庭(園庭)	ホッケー部の練習中に、相手が打ったあとスティックが口唇部に当たり、歯牙を脱臼・歯折、顎を骨折した。
歯牙障害	2	男	ホッケー	運動場・校庭(園庭)	運動場でホッケーをしていて、ディフェンスをしている時に、相手のスティックが口に強く当たった。
歯牙障害	1	女	ホッケー	運動場・校庭(園庭)	試合形式の練習で、相手チームの生徒が放ったシュートボールが味方チームの生徒のスティックに当たり、その跳ね返ったボールが本生徒の口元に激しく当たった。多量出血、前歯の破折がみられた。
歯牙障害	3	男	ホッケー	運動場・校庭(園庭)	マンツーマンの練習でドリブルをして走っていた際、相手のスティックが口に当たり前歯を折ってしまった。
歯牙障害	2	女	ホッケー	運動場・競技場	他の部員のスティックに当たって跳ね返ってきたボールが、顔面に直撃し、歯を負傷した。
歯牙障害	3	女	ホッケー	運動場・校庭(園庭)	ホッケー部で練習試合をしていた際、相手チームの選手がボールを打つ瞬間に本生徒がスティックを出したところ、ボールが跳ね上がり、本生徒の顔を直撃した。口唇部分に当たり、歯等を怪我した。
歯牙障害	2	男	ホッケー	運動場・競技場	ホッケーの試合中、シュートボールが顔に当たった際、歯が2本折れ、シュート後のスティックが口の横に当たり、口の横を切った。
歯牙障害	1	女	ホッケー	運動場・校庭(園庭)	ホッケー部の練習中、相手とボールを奪い合っていた際、誤って相手のスティックが歯に強く当たり負傷した。
手指切断・機能障害	1	女	ホッケー	公園・遊園地	ホッケー体育的部活動中、試合の際、味方からの浮いたボールを止めようとした時、右環指に当たりスティックとの間に挟まれ負傷した。